



「菅原組とその素晴らしい仲間たち、ありがとう。前年度に手がけた砂原漁港波除堤ほか一連建設工事で北海道開発局優良工事施工業者表彰・優良工事施工技術者表彰を受賞。直後の社内表彰式で、こころを張り上げた。A4判で二枚半になる受賞スピーチの八割は、発注者を含む関係者への謝辞。「一人ではできっこありませんから」。工事では、ケーソン中詰めに設計段階のカット船ではなくスバット式バックホー船を使用、型枠のコーナー部分のジャッキを四十五度の位置に設定し自在に

一生懸命がかっこいい



伸縮させるなど効率化の工夫を随所に凝らした。消波ブロック製作では型枠との間に隙間のない専用足場を製作し、安全施工に努めた。地域への貢献もピカ一。港内清掃は月一回ペースで計七回実施、地域のお祭りではあちこちから誘いがかかるほど溶け込んだ。道の駅で自作のラベルをあしらった飲料を配布するなど交通安全運動は実に三度に及ぶ。無類の車好きに加え、数年前に仲間をバイク

菅原組(函館)営業企画部
企画担当次長兼 工事部工事課長

市川 順昭 氏

事故で亡くした悲しみが背中を押すようだ。

冒頭のスピーチの残り二割は「永ちゃん」こと矢沢永吉の話題。十年ほど前にラジオで「一生懸命やってみて、かっこいいぜ」と聞いたエピソードを披露した。「以来なんでも一生懸命やろうと思っただけです。かっこいい四十代になりたくて」と、少年のように目を輝かせた。

家族は妻と一女二男。

いちかわ・よりあき

昭和五十六年日大工学部卒業後、同社に入社。平成七年工事課長。十五年から企画担当次長を兼務。
昭和三十三年九月十三日生まれ、四十六歳。函館市出身。